

海老名市
そだちの教室

いずみ教室



教室概要



海老名市立中新田小学校

いずみ教室（そだちの通級教室）について

いずみは自ら湧き出るもの、絶えることのない永遠の命の源として存在します。
このいずみのように、通級してくる子どもたち一人ひとりが、自分の内面から湧き出てくる個性を大切に、未来への希望を広げてほしいと願っています。
いずみ教室は、通級してくる子どもたちにとって「心のオアシス」となるような場所を目指し、支援していきたいと思えます。

1. 指導の目的

通常の学級に在籍する児童の中には、友達とうまく遊べなかったり、集団生活・活動に対応できなかったりして、本来の力を十分に伸ばしきれない児童がいます。そのような児童に対して、一人ひとりの能力・特性に応じた指導を行ない、学校生活がスムーズに送れるように総合的に支援していくことが大きな目的です。特に、行動上の課題の改善、対人関係の改善、能力的なアンバランスの改善を目標として、社会生活への適応を高め、より豊かな人間性の育成を図ります。

2. 指導の基本方針

- (1) 一人ひとりにそった適切な指導方針に基づいて指導します。
- (2) 保護者と相談し、子どもへの理解を深めて、共に支援します。
- (3) 学級担任と連絡を密にし、在籍学級での適切な支援に向けて連携を図ります。

3. 指導の対象

こんな願いのある子どもたちが対象です。

- ・ 友だちとうまく遊びたい。
- ・ 静かに待てるようになりたい。
- ・ 思っていることをうまく話せるようになりたい。
- ・ 話を聞いて、何をしたらいいのかすぐにわかるようになりたい。

- ・ 学校生活や遊びのルールを守れるようになりたい。
- ・ 相手の気持ちや状況を考えて、行動できるようになりたい。
- ・ スムーズに動作や作業に取りかけられるようになりたい。
- ・ 忘れ物を少なくしたい。

4. 指導の内容

(1) 児童への支援・指導

子どもたちが積極的に学校生活に参加していくことができるよう、一人ひとりの状態や能力、特性に応じて指導目標を立てます。得意な面を伸ばし、苦手な面を学習させ、学校生活や社会生活をよりスムーズに過ごせるように支援します。

① 情緒の安定について

〈苦手なこと〉(例)

- ・ なかよくしたいのに、うまく遊べない。
- ・ ゲームをするとき、ルールがわからない。また、協力してプレーできない。
- ・ よく考えずに思ったことを言ってしまう。

⇒ソーシャル・スキル・トレーニング

意図的に場面を設定して、対人関係にかかわるスキル（挨拶・会話の運び方・依頼の仕方・お礼の仕方・人のしぐさの読み取り方・人の話の聞き方・話し方など）を学び、場面の状況に応じた適切な対処の仕方を指導します。

〈苦手なこと〉(例)

- ・ 気が散りやすい。
- ・ 手足をそわそわ動かしたり、座っているべきときに席を離れたりしてしまう。
- ・ 他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。

⇒不適應の改善

まず、自信と意欲を回復し情緒の安定を図ります。そのうえで場面の状況を理解させ、適切な行動をとることができるよう指導します。不適應をおこしている行動については、その行動に隠されたメッセージを読み取って、児童や学級担任とともに解決の方法を考えていきます。

② 学習について

〈苦手なこと〉(例)

- ・ 先生の指示が理解できない。
- ・ 文字を書くことが苦手で、鏡文字になったり似ている形の字を間違えたりする。
- ・ 位置や空間が把握できず、服を後ろ前に着たり教室移動でまごついたりする。

⇒学習特性に合わせた指導

児童一人ひとりのつまずきを捉え、その特性を把握するところから始めます。その実態に応じて、教室・学習環境を設定し、教材・教具を有効に使うなどして、学習の基本的な力を身につけるための支援を行ないます。

③ 運動機能について

〈苦手なこと〉(例)

- ・ 走り方がぎこちない。
- ・ なわとびがうまくとべない。
- ・ はさみやのりをうまく使えないので、作業に時間がかかる。

⇒身体運動

バランス感覚や協応運動、巧緻性などに課題が見られることもあります。そこで、児童一人ひとりの能力・発達段階に応じて、身体活動を盛んにして、バランスのとれた運動能力、作業能力の向上をめざします。

④ コミュニケーションについて

〈苦手なこと〉(例)

- ・ 会話が一方通行であったり、応答にならなかつたりすることがある。
- ・ うなずく、微笑むなどの共感する動作が少ない。
- ・ ていねいすぎる言葉遣いをする。

⇒会話によるコミュニケーション

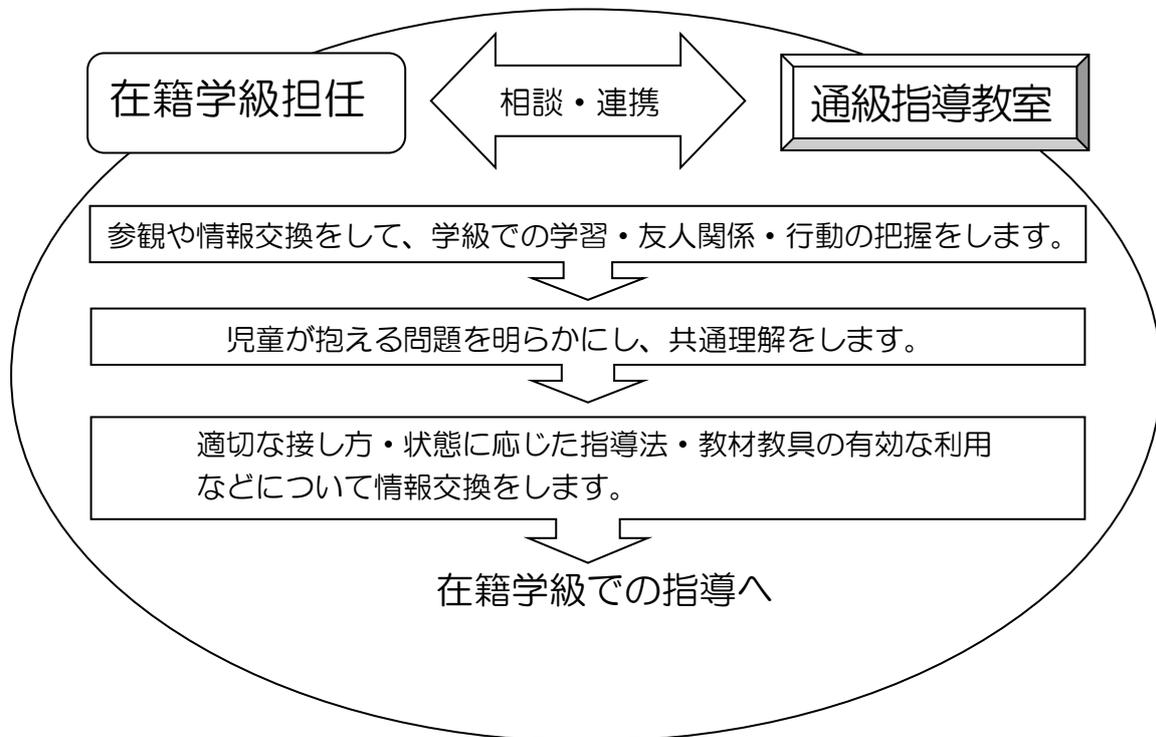
日常的に必要な事物・事柄に関することばの理解やその適切な使い方、場面や状況の理解などを、一人ひとりの能力に応じて指導します。「話す」「聞く」という基本的な力を身につけられるよう、ロールプレイングやゲームを通して学んでいきます。

(2) 保護者との連携

- ・ 保護者自身の障害への理解・受容を助けるため、日常的な相談を心がけます。
- ・ そのための適切な情報を提供し、より良い環境を作ることを心がけます。
- ・ 保護者懇談会を通して保護者相互の話し合いを深め、子どもへのかかわり方を互いに学べるよう教室環境の整備を心がけます。

(3) 在籍学級担任との連携

通級してくる児童の**基本的な生活の場は在籍学級**です。週に1回の通級でできることは限られています。児童が在籍学級でスムーズな生活を送るために、在籍学級担任との情報交換・相談を密にし、連携を取りながら支援を進めたいと考えています。



5. 指導の形態

○ 国語・体育・図工・音楽・ゲームなどの学習を通して

- ・ コミュニケーション（表出・理解・やりとり・語彙の拡大）など
- ・ 社会性（ルール・集団行動・場面に応じた行動）など
- ・ セルフ・コントロール（情緒の安定・集中・行動の調整）など

に関するスキルの育成をめざします。

○ 基本的には小グループで指導します。（希望者のみ個別）

○ 1回の指導は1時間30分です。

○ プログラムの例

1. はじめの会

- ・ 毎回決まった流れで始め、心理的な安定を図る
- ・ 予定を確認し、活動の見通しを立てる

2. グループ指導

- ・ 国語や図工、ゲームなどの活動をグループで行い、やりとりの理解やルール・場面に応じた行動ができるようにする

3. 個別指導

- ・ 学習の補助
- ・ 苦手な課題への取り組み

4. グループ指導

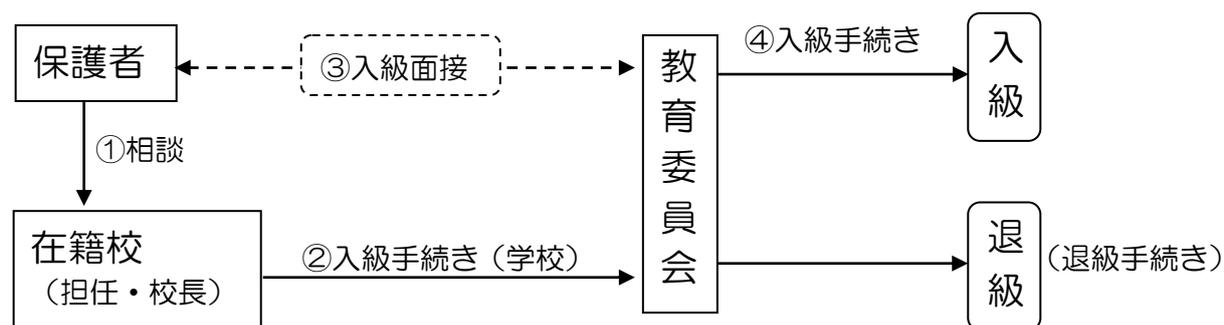
- ・ 体育やゲームなどの活動をグループで行い、体を動かしながら一斉指示の理解や集団行動ができるようにする

5. おわりの会

- ・ その日のふりかえりをする
- ・ 次回の予告



6. 入級・退級の流れ



- ※ 子ども自身や保護者が通級を希望することから始まります。
- ※ 学年や学期の途中からでも始められます。
- ※ 通級する日数・曜日・時間などは、保護者と教育委員会、通級教室と在籍校で相談して決めます。
- ※ 通級指導は、児童への指導とともに、保護者との連携も大切になります。そこで、通級に関しては保護者の付き添いを原則としています。通級時の児童の安全の確保を図るとともに、保護者の方にも子どもの様子を見ていただき、保護者と教師が共通理解の上で、一貫性を持った指導を行い、児童の総合的な伸長と改善を図ります。バス等の公共交通機関を利用して通級される場合は、保護者を含めて交通費が支給されます。なお、在籍の学校は欠席にはなりません。